

2026年度 神戸大学 前期 国語

一

問一

「できる」ことは、一定の条件下で実際に観察できる行為や結果として発現することであり、個人に内属し直接知覚できない潜在性や性向である「能力」とは異なるということ。(八〇字)

問二

近代化された社会では、機会の平等と市場での等価交換とに基づいて対価の格差を説明する能力主義の論理によって、社会的富の配分の不均等は公正だとみなされるということ。(八〇字)

問三

交換において相手との関係性に厳密な等価性がなくても、等価性を目指すやりとりが不断に行われているならば、正義は保たれていると納得する、互酬性にも見出せる感覚。(七八字)

問四

経済／道徳の原理として交換とヒエラルキー、コミュニティが共存しているはずの現在の資本主義社会では、公正さを体现する原理として交換の論理が重視される。その論理に立つ能力主義の言説は、能力と配分の問題を区別せず、努力による不平等な現実からの解放や逆転の可能性を示唆することで、富の配分の不均等を正当化し再生産するということ。(一六〇字)

問五

- a 系譜 b 劣 c 保証 d 完遂 e 貨幣

問一 ① 自然と世の中が落ち着いて、あなたと私が再びお互いに出会うこともきつとあるだろうけれども

② 陳氏は、徳言の妻だったかつてとは似るはずもない立派な様子であるけれども

③ 正気でない陳氏の様子を親王が見て気付いて

④ 親王は、装束を壮麗に仕立てて陳氏を送り出して

問二 徳言が、陳氏は他の人を愛し自分との再会の約束を忘れたのではないかということに「胸の苦しさ」を感じた。(五十字)

問三 前の夫との約束を忘れずにいることを殊勝に思い、陳氏を夫の許へ送り返した親王の慈悲深さを、比類なく優れていると評価した。(五十九字)

問四 a ぬ b ぬ c に

問五 ロ

三

問一

- a たまたま
- b いくばくも
- c のみ(と)

問二

いまだしっしょうせざるものあらず

問三

- (一) 酒を酌み交わしてともにお祝いしなければならない。
- (二) あとわずかな距離で故郷に帰りつけるから。(二〇字)

問四

使用人が、故郷までの道のりはまだ遠いのに、わずかな距離であるかのように言っただから。

問五

故郷へと帰る使用人たちの冗談は、楽府に歌われている故郷へと急ぐ旅人の心情に一致しているということ。(四九字)